



下末吉だより

令和8年4月30日

5月号

横浜市立下末吉小学校

令和8年度の目標と取組について

校長 千葉 寛興

【令和8年度の下末吉小学校の中期取組目標(令和7年度からの3年間の2年目)】
「下小74周年 未来・仲間・地域に繋ごう下小のバトン！」
～見つめる→繋げる→深める～

上にお示したのは、令和7年度から令和9年度までの3年間で取り組んでいる本校の中期取組目標です。昨年度の振り返りを受け、「仲間・地域」の言葉を付け加えました。下小ならではの、地域に根差した、お互いの顔が見える関係を基盤に、引き続き下小の良さを伸ばすための今年度の具体的な取組について、3つ紹介いたします。

確かな学力

昨年度は、ICT活用や学び方の選択を取り入れた授業改善により、学習意欲の向上や基礎・基本の定着が一定程度見られました。一方で、児童一人ひとりの理解度の差を十分に把握し切れないという課題も残りました。そこで本年度は、学年・ブロックで児童の実態を継続的に共有し、チームで授業改善を進めることを重視していきます。また、学び方の選択の幅を広げ、児童が主体的に学びを構築する授業づくりへと内容を深化させ、学習の質の向上を図っていきます。

豊かな心

昨年度は、年間を通してたてわり活動を実施し、異学年交流の充実や高学年のリーダーシップ育成に成果が見られました。特に中学年が責任をもって活動に取り組む姿が育ちつつありました。一方で、たてわり班以外の人との交流の場が少なめになる傾向もありました。そこで本年度は、行事をたてわり班で取り組むことに加え、ペア学年の組み替えや発表・学習場面での異学年交流を位置づけ、日常的に互いを認め合う経験を増やすことで、より豊かな人間関係の形成を目指していきます。

特別支援教育(国際教室)

令和7年度は、ステップアップルームでの取り出し指導や国際教室での丁寧な支援により、児童や保護者の安心感につながる成果が見られました。一方で、支援後の学習補填や入り込み支援の不足、支援が必要な児童の増加への対応が課題となりました。そこで令和8年度は、児童の実態に応じた保護者への情報提供や支援体制の充実、個別指導の強化、さらに支援が必要な児童の情報共有体制を整えることで、支援の質を高め、学級全体のユニバーサルデザイン化を推進していきたいと考えています。

子どもたちが意欲的に学習に取り組んだ4月でした。皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動へのご理解とご支援のほど、よろしくお願いいたします。



下末吉小学校 HP